

学校関係者評価報告書

【評価対象期間】 自：2018年4月1日
至：2019年3月31日
【評価基準日】 2019年4月1日

学校法人 麻生塾
麻生情報ビジネス専門学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況.....	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生情報ビジネス専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)	出欠
団体	牛島 賢二	社団法人福岡県情報サービス産業協会(企画調査委員会 委員長)	出席
団体	荒井 秀和	Training Center Japan(事務局長)	欠席
団体	馬場 伸一	NPO法人九州組込みソフトウェアコンソーシアム(事務局長)	出席
企業	小林 憲一	小林憲一税理士事務所(所長)	出席
企業	岩永 茂敏	リコージャパン株式会社(福岡支社 MA 営業部 公共担当室長)	出席
企業	菊本 健司	株式会社アルファクス・フード・システム(マーケティング営業戦略部 部長)	欠席
企業	今治 智隆	株式会社ヴァイス(代表取締役 社長)	出席
企業	福田 史裕	株式会社マトリックス(福岡開発室 技術開発課 課長次席)	出席
企業	森 瞭維智	株式会社 FOREST Hunting One(代表取締役 社長)	欠席
企業	日高 信生	株式会社ディーゼロ(取締役)	代出席
企業	執行 拓美	株式会社プロジェクトスタジオQ	代出席
企業	河原 洋	株式会社 studio A-CAT(福岡支社 支部長)	出席
高等学校	大山 明	三井中央高等学校(学校長)	出席
地域の方	浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会(会長)	出席
卒業生	中園 晴久		出席
保護者	中西 はるみ		出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2019年6月21日（金）15：00 ～16：00

場 所：麻生塾福岡キャンパス 1号館 4階 145教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者委員の皆さまに、2018年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

2018年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- （1）自己評価結果の内容が適切かどうか
- （2）今後の解決方向が適切かどうか
- （3）学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- （4）その他、学校の運営に関する助言

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【評価結果・取組み状況】

- ・アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの3つのポリシーを策定した。教育理念について、学生便覧には2018年度までは法人の理念のみの記載となっている。
- ・メンタル面のサポートを必要とする学生が増えており、支援体制の充実が必要と考えている。麻生塾全体の支援体制とは別に学校独自のサポート体制の構築と携帯できるカードを学生に配布し、学生への周知に取り組んでいる。

【委員からの意見】

- ・学校の教育理念、学科の教育目的の公開を速やかにおこなうこと。
- ・学生に対する支援体制が整えられており、安心感があると感じる。
- ・学生に対して相談窓口が設けられており、支援体制が充分整備されていると思う。
- ・キャンパスライフサポートセンターの設置により、学生のことを大切にされている姿勢が伝わり、立派であると感じる。
- ・学校側が課題として認識しているように、面談が重要と考えている。本当に悩んでいる学生は自分から相談することが難しく、定期的な声掛けが出来れば良いと感じた。

【改善の方策】

コアスキル・タスクリストの作成ができており今後はこの結果を踏まえた人材育成・採用の計画実施が必要と思われる。

支援体制を整備したことにより一定の効果があつたと捉えているが、一朝一夕で効果が出るものではないため、より初期段階での面談を増やすことで、多欠席や休学・退学の抑制に繋がられるよう取り組みを継続していく。

2019年度より学校の教育理念と3つのポリシーについて学生便覧に記載し、学生へ周知をしていく。教職員の確保は重要事項でも有り、今後も継続的・計画的な採用をおこなっていく。

基準 1 教育理念、目的、人材育成像

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・学校の教育理念等について明文化し、新入生に対しては学生便覧を通じて周知をしている。
- ・グローバルシティズンベーシック教育を通じて、麻生塾の学生としてふさわしい考え方を育てている。

【委員からの意見】

- ・グローバルシティズンベーシック教育の評価／結果の公表を検討してほしい。
- ・グローバルシティズンベーシック教育は重要と考えている。今後もブラッシュアップを続けてほしい。
- ・企業と連携し、入社後のキャリアも企業・学校が連携すればより活性化されるのではないかと思う。
- ・法人→教職員→学生へと連動した取り組みの継続を希望する。

【改善の方策】

学生便覧へ今後も「教育理念」を記載配布し、担任を通して周知する。また、HPへの公開もおこなう。
グローバルシティズンベーシック教育については、教職員が定期的に研修に参加し、指導力の向上を図る。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・運営方針はルールブックに記載し、規定通り運営している。事業計画についても校長代行を中心に策定し、計画に沿って運営している。
- ・事務職員の研修について主に学内の研修を中心に参加しているが、学外での研修制度が整備されていない。

【委員からの意見】

- ・質の高い教職員の安定した職場環境が必要。
- ・学校としてどのような人材育成を行っている説明が欲しい。
- ・教師アンケートの結果を踏まえた取組みを行ってほしい。
- ・就職担当の事務職員の学校への配置は評価できる。

【改善の方策】

事務職員に対して研修を実施し、資質向上を図るとともにキャリア形成を行う。
学科毎の人材育成像は2019年度の学生便覧に記載、次回以降の学校関係者評価委員会時に抜粋して配布する。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・カリキュラムについては教育課程編成委員会での意見評価を反映したカリキュラムを作成し、定期的に見直しを行っている。
- ・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを明示し、全教職員に周知している。
- ・教育の評価については授業アンケートを実施し、その結果に基づき改善を図っている。

【委員からの意見】

- ・委員の意見が反映されていることについて高く評価する。
- ・学生の技術面での評価は試験で行えるが、人間性についての評価についても検討してほしい。

【改善の方策】

教育課程の編成・実施方針に基づき、今後も定期的なカリキュラムの見直しを行い、教育内容の充実を図る。

カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに沿って適切な教育が行われているか、教務会議にて定期的な検証を行う。

人間性についての評価についてはどういった指標が適切なのか検討していく。

授業アンケートの結果を踏まえ、必要に応じて授業観察や研修等の計画を立案し改善に結びつける。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・教育活動の成果(目標値)については事業計画の中で全教職員に周知している。
- ・目標の進捗状況については、毎月クラス運営報告書にて報告し、学科会議等で振り返りを行っている。

【委員からの意見】

- ・多様性のあるキャリアの考え方を持つことができる教育を望む。

【改善の方策】

入学している学生の多様性への対応が課題となっており、退学・留年を防止し、卒業率・進級率の向上と学生個人にあわせた進路教育を行う。

各種コンテストに積極的に参加し、客観的視点から教育達成度の評価を図り、改善に繋げていく。

卒業生について状況の把握などは就職グループと協同し教育活動に活かしていく。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・学校を支援するキャリア支援本部、経営推進本部という組織があり、入学前から卒業後まで継続した支援を行っている。
- ・就職支援に関しては専任スタッフを配置し、求人票の獲得や会社情報の提供を行うなど在校生への就職指導を行っている。

【委員からの意見】

- ・通常の授業はもちろんであるが、モチベーション維持のための施策が必要であると考える。
- ・留学生、社会人など多様な学生の交流を図ることで本人の視野も広がるのではないかと考える。

【改善方策】

学生のモチベーション維持・向上を図るために就職部会で情報共有・指導方法についての議題を作ることで各部門と連携し、横断的な支援を行う。

留学生の入学増加に対応するべく、生活支援や就職指導等について国際交流センターをはじめとする関係

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・施設、設備については年度ごとに教室見直しおよび設備補充をしており、かつ良好に管理できている。
- ・図書室について専門分野の蔵書が少なく、有効に活用できていない。
- ・防犯設備の点検や避難経路を掲示し教員へ周知徹底を図っているが、避難訓練が実施できていない。

【委員からの意見】

- ・活字離れの時代における図書室整備は評価できるが、より活用する仕組みが望まれる。
- ・古典文学を蔵書に入れてみてはどうか。
- ・留学生と日本人学生の交流の場として図書室を利用してみてはどうか。
- ・図書室の利用状況については場所の問題もあるのではないか。
- ・電子図書の導入を検討してはどうか。
- ・災害発生時の避難経路の明確な表示と学生への周知徹底をお願いしたい。

【改善の方策】

教育設備については引き続き事業戦略グループと連携し、必要に応じて適宜見直しを行う。

総合図書室については蔵書の増加や利用促進の策を講じ、有効に活用していく。

安全対策については年間計画に避難訓練の実施日を策定し、確実に実施する。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適正に学生募集を行っている。
- ・入学者選考は入試実施マニュアルに基づき、公正かつ適正に実施しており、定員数についてもカリキュラム会議・学科検討会議の中で検証している。

【委員からの意見】

- ・カリキュラムの一般への公開を期待している。

【改善の方策】

業界のニーズに応えるべく、定員数や選考基準などの見直しの必要があるかをカリキュラム会議や学科検討会議の中で継続的に検証していく。

カリキュラムの公開についてホームページにて公開する。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・年度予算に従って管理運営が厳格に行われており、また部門長にて月次での予算管理が行われている。
- ・監査についても定期的の実施をしている。

【委員からの意見】

委員の方からの意見は特になし。

【改善の方策】

特に問題点はないが、年度および中期計画を策定し、今後も適切な管理・運用を行っていく。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・職業実践専門課程および文部科学省専門課程認定校の基準を遵守しており、教育環境については関係部署と連携し、教室整備の見直し、教員配置の確認を行っている。

【委員からの意見】

委員の方からの意見は特になし

【改善の方策】

現時点で特に問題は無いが、学生数の増加に伴う校舎・教室の調整を続けていく必要がある。

また、法令、専修学校設置基準に変更が生じた際は、基準に沿って整備を行う。

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・担当教職員を中心に自己点検・評価を行っており、問題解決のために共有を図っている。
- ・課題解決については学校関係者評価委員会で説明を行い、改善案をともに考える仕組みを整えている。
- ・結果の公表については、ホームページで外部に向けて公表している。

【委員からの意見】

委員の方からの意見は特になし

【改善の方策】

自己点検・評価の課題について改善が不十分なものもあるため、教職員全体で改善の意識を持ち、課題の解決に取り組んでいく。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・毎年3月に実施している「お仕事スタジアム」にて、地域の高校生に対し将来の職業観の醸成を高める活動を行っており、社会貢献活動の一環として定着している。
- ・ボランティア活動については地域イベントに毎年ボランティアとして参加している。

【委員からの意見】

- ・ボランティア活動は義務になる事のないように進めてほしい。
- ・ベンチャー活動等の指導を希望する。

【改善の方策】

ボランティア活動は学生の自主性を尊重して推奨していく。

地域に根差した教育機関として、教育資源を活かした地域住民参加の公開講座等を実施する。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・事務職員が必要な研修を受け、また関係部署と連携し留学生の受け入れについて適正な手続きが行われる体制を整備している。
- ・留学生については担任を中心として複数の教職員で関わるようにしている。

【委員からの意見】

- ・留学生がもっと学内で活動する様子を期待したい。
- ・スポーツ大会等で交流してみてもどうか。

【改善の方策】

留学生の就職支援について、各校の就職担当者や国際交流センターといった関係部署と連携し、就職先の開拓および即戦力となる為の支援を行っていく。

スポーツ大会や各種イベントを通じて留学生と日本人学生の交流の場を増やしていく。